

■委員会報告

2019年度認知症看護認定看護師の活動実態調査報告（その2）

学会への要望について

Survey Report 2019 on Activities of Certified Nurses in Dementia Nursing (Part 2)
Request to Japan Academy of Gerontological Nursing

【2018～2019年度日本老年看護学会専門看護師・認定看護師活動推進委員会】

委員長：百瀬由美子¹⁾委員：小原良之²⁾，桑田美代子³⁾，鈴木智子⁴⁾，高原昭⁵⁾，長谷川美智子⁶⁾，
吉岡佐知子⁷⁾，湯浅美千代⁸⁾，和田奈美子⁹⁾

老年看護学, 26(1): 143-149(2021)

1. はじめに

認知症看護認定看護師（2003年当初は老人痴呆看護，2004年に認知症高齢者看護，2007年に認知症看護として分野特定）については，日本老年看護学会（以下，本学会）の理事等が当初のカリキュラムを作成するなど，発足に関わってきた。毎年開催される学術集会は，認定を受けた者による交流集会開催やシンポジストとしての登壇など，認定後の研鑽の機会になっている。また，認知症看護認定看護師会発足にあたり支援するなど，多くの関わりをもってきた。

本学会の委員会活動でも，専門看護師・認定看護師活動推進委員会（以下，本委員会）をもち，主として老人看護専門看護師（以下，GCNS），認知症看護認定看護師（以下，DCN）の活動を推進しようと努力している。老年看護学第25巻2号において，本委員会が行ったDCNの活動実態調査のなかからDCNの活動内容とその成果を報告した（百瀬ら，2021）。本報告では本学会

への要望を中心に報告する。

2. 目的

本調査の目的は，DCNの本学会に対する要望を明らかにし，本委員会による支援の方向性を示すことである。

3. 方法

1) 調査期間

2019年12月～2020年1月

2) 対象者

2019年9月時点で日本看護協会ホームページに名前と所属先を明らかにしている認知症看護認定看護師1,141人。

3) 研究方法

(1) データ収集方法

本委員会で作成した無記名自記式の調査票と返信用封筒を郵送し，協力を依頼した。調査内容は，対象者の属性（本学会との関係を含む），活動内容，活動の成果，本学会への要望である。

(2) 分析方法

対象者の属性別に記述統計を示す。自由回答の記述は内容分析を行った。

4) 主な倫理的配慮

調査票は無記名であり，自由な意思による協力を求めた。なお，一般社団法人日本老年看護学会研究倫理審査

1) Yumiko Momose: 愛知県立大学 (Aichi Prefectural University)
2) Yoshiyuki Kohara: 湘南医療大学 (Shonan University of Medical Sciences)
3) Miyoko Kuwata: 青梅慶友病院 (Oume Keiyu Hospital)
4) Tomoko Suzuki: 創価大学 (Soka University)
5) Akira Takahara: 日本生命病院 (Nippon Life Hospital)
6) Michiko Hasegawa: 京都民医連中央病院 (Kyoto Min-iren Chuo Hospital)
7) Sachiko Yoshioka: 松江市立病院 (Matsue City Hospital)
8) Michiyo Yuasa: 順天堂大学 (Juntendo University)
9) Namiko Wada: 横浜栄共済病院 (Yokohama Sakae Kyosai Hospital)

表1 入会状況

回答内容	DCN 経験年数 (DCN 経験年数未記入1人を除く)							
	全体		3年未満		3～5年		6年以上	
	N = 645 (人)	(%)	n = 252 (人)	(%)	n = 223 (人)	(%)	n = 169 (人)	(%)
会員である	348	54.0	117	46.4	131	58.7	99	58.6
会員でない	276	42.8	126	50.0	84	37.7	66	39.0
無回答	21	3.2	9	3.6	8	3.6	4	2.4

表2 非会員の今後の入会希望 (DCN 経験年数別)

回答内容	DCN 経験年数							
	全体		3年未満		3～5年		6年以上	
	N = 276 (人)	(%)	n = 126 (人)	(%)	n = 84 (人)	(%)	n = 66 (人)	(%)
入会希望あり	196	71.0	91	72.2	66	78.6	39	59.1
入会希望なし	69	25.0	28	22.2	17	20.2	24	36.4
無回答	11	4.0	7	5.6	1	1.2	3	4.5

表3 入会を考えていない理由

N=63 (複数回答)

回答内容	回答者数	3年未満		
		3年	3～5年	6年以上
入会の条件の厳しさ	24	12	4	8
入会手続き上の煩雑さと滞り	6	4	1	1
入会の必要性・メリットなし	13	4	5	4
学会に対する悪いイメージ	1	0	0	1
無関心	3	1	1	1
多忙	1	0	0	1
会費の負担	9	4	4	1
他学会会員・他学会への興味	9	6	3	0
年齢	2	1	0	1
学会活動への自信がない	4	2	2	0

表5 認定看護師間のネットワークのその他の回答

N=171 (複数回答)

回答	回答者数
地域	
県内の DCN のネットワーク	98
県内の DCN と GCNS の集まり	4
県の看護協会内の組織でのつながり	2
地域のネットワーク (DCN 会等)	21
市内の CN とのつながり	2
組織間・組織内	
近隣病院の CN とのつながり	1
院内および系列病院・施設でのつながり	12
施設で働く DCN 会	3
活動	
研修担当の機会を通じたつながり	11
認知症関連の活動を通じたつながり	3
教育機関	
卒業校のネットワーク	7
教員による集まり・関係を通じたつながり	11
実習関連でのつながり	5
個人	
個人的なつながり	2

表4 DCN 間のネットワーク (複数回答)

N=645

回答内容	(人)	(%)
同期の仲間のネットワークでつながっている	439	68.1
同じ研修学校卒業生のネットワークでつながっている	371	57.5
認知症看護認定看護師会・部会に所属している	347	53.8
その他	182	28.2
特になし	6	0.9

会の承認を得て実施した (承認番号 19-1).

4. 結果

1) 回答者の概要

645人から調査票の返送があった (回収率 56.3%). 回答者の主な概要は前報告 (百瀬ら, 2021) に示した.

回答者のうち本学会会員が 348人 (54.0%), 非会員が 276人 (42.8%) であった. 経験年数で見ると 3年未満では, 会員, 非会員がほぼ同じ割合で, 3年を超えると会員の割合が高くなる (表1).

非会員のうちこれから会員になることを考えている者が 196人 (71.0%) であったが, 考えていない者も 69人 (25.0%) いた (表2). 入会を考えていない理由は, 入会条件の厳しさ, 入会の必要性・メリットがない, 会費の負担, 他学会の会員・他学会への興味などであった (表3).

DCN 間のネットワークについては, 同期のネットワーク, 同じ研修学校卒業生のネットワーク, 認知症看護認定看護師会・部会のほか, 地域でのネットワークや組織間・組織内のネットワーク, 教員を通じたつながりなどがあり, 特になしという回答は 6人のみであった (表4, 5).

表 6 学会の研修に期待すること

N=198 (複数回答)

	内容	回答者数 (人)
参加しやすさへの要望	参加しやすい開催地 (地方など)	50
	交通の便がよい場所, 駐車場の確保	1
	回数を多く	10
	定期開催	1
	講師派遣	1
	参加費を安く	1
	企画内容を多く	1
	参加制限なしで	2
	インターネットでの配信	3
	研修の情報・案内送付	5
	HP での情報発信	1
	DCN 活動の PR, バックアップの取り組み	8
研修内容への要望	フォローアップ研修	18
	更新に役立つ研修	10
	研修企画に役立つ研修や教材	7
	事例検討会	6
	DCN の実践報告, 活動報告	4
	最新の知見, 動向	12
	医学的知識	3
	加齢に関する内容	1
	制度, 政策, 法律	3
	身体拘束解除に向けた研修	5
	倫理に関する研修	6
	一般総合病院での具体的なケア	1
	地域・施設での活動方法	8
	看護必要度との連携	1
	加算関係の研修	2
	アセスメントに関する研修	3
	アウトカム, 成果を示す方法	3
	実務・実践に役立つ研修	5
	認知症看護の質向上に向けた研修	2
	組織全体での取り組み方法	3
	コミュニケーション技法	2
	EOL ケア	1
	自己の振り返りや気づきができる研修	1
コンサルテーションの方法	1	
研究の方法, 研究支援	7	
研修対象への要望	管理者向けの研修	1
研修方法への要望	事例をふまえた講習	2
	当事者が企画・講師となる研修	2
	グループワーク	1
	GCNS と合同の研修	3
	他 CN・DCN 間の交流	3
研修への参画の要望	講師役割をまわしてほしい	1
研修継続の要望	現在の研修の継続	3

2) 学会活動への要望

学会活動への要望について, その他を含む 5 つの項目について自由記述での回答を求めた。

研修会については, 参加しやすさ (開催地, 回数等) への要望が多かった。研修会内容の要望は, フォローアップ研修, 最新の知見や動向, 更新に役立つ研修などが挙げられた。そのほか, 研修方法についての意見なども挙

げられた (表 6)。

学会誌については, 認知症の最新情報や DCN の活動報告のほか, 実務に役立つ内容への要望が挙げられた (表 7)。

学術集会については, 交流会や DCN の活動報告, 認知症に関する情報の企画の要望のほか, 参加しやすさへの要望が挙げられた (表 8)。

表7 学会誌について期待すること N=54 (複数回答)

内容	回答者数 (人)
認知症の最新情報	13
認知症疾患センターの現状	1
ほかにあまりない研究	1
研究報告	1
DCNの活動報告	13
事例検討	3
活動の参考になるもの(アセスメント, 倫理, 院内デイ, 具体的な取り組み内容など)	11
更新に関する情報	1
論文のまとめ方, 研究・投稿への支援	6
他学会とのコラボレーション, 多様な人の関与	2
研修で活用できる付録	1
CNS, DCN活動のPR	1
電子化	2

表8 学術集会について期待すること N=73 (複数回答)

内容	回答者数 (人)
DCN, CNS, CNの交流会	7
DCNの活動報告	10
認知症に関する情報	12
実践に役立つ内容(看護を伝えるテクニック, 医学の内容, 院内デイ, 倫理的課題, 疾患を合併している認知症患者のケア, 教育的関わり, Q&Aコーナー, CN間連携等)	10
他職種が関与するシンポジウム	1
当事者が関与する企画	4
DCN限定のプログラム	2
シンポジウムや教育講演へのDCNの登壇	1
参加したいプログラムに参加できる工夫	5
地方会開催	4
会期延長し内容充実	1
アクセスしやすい場所での開催	3
CNS, DCNのPR	1
発表への支援	6
締め切り日の設定への配慮	1
ランチョンセミナーを増やす	1
プログラムと抄録のリンク	1
会費を安く	1
職場への参加案内送付	1
老年学会継続	1
実践に活かさない研究が多い	1

認知症看護認定看護師教育については、DCN自身の教育についてフォローアップ研修への要望が多かった(表9a)。そのほか、特定行為研修を受講していない立場から地位が低下しないことなどのサポートを求める内容もあった。DCNを育成する教育については、質の担保に関わる意見などが挙げられた(表9b)。

その他、学会に期待することについては、DCNの活動のPRや待遇改善のための活動、実践に役立つ研修や

表9a DCN教育について期待すること(その1: DCN自身の教育) N=63 (複数回答)

内容	回答者数 (人)
継続的な教育の実施(フォローアップ研修等, 各地域で, 定期的・継続的に)	25
通信教育など受講しやすい方法	1
ステップアップの教育課程設置	1
教育のトピックス	
アセスメントに関する研修	3
教育方法に関する研修	1
研究的視点	1
疾患, 認知機能, 評価方法について	3
意思決定支援	1
睡眠ケア	1
認知症ケア方法(バリデーション, ユマニチュード)	3
介護保険や加算	1
施設内での体制づくり	1
EOL	1
論文や実践報告の指導	3
活動報告・事例での学び	4
DCN間の交流	2
更新のポイントになる研修	2
特定行為研修に関わるサポート(情報提供, 特定行為研修を受けないDCNの地位の確保, 研修費の補助等)	7
DCNがバーンアウトしない取り組み	1
急性期病院でのDCN活動の推進PR	1
DCNに対する学会参加のPR	1

表9b DCN教育について期待すること(その2: DCN養成教育) N=28

内容	回答者数 (人)
DCN教育機関を増やす	5
DCN教育の質の確保(教育方法, 内容, 時間数等)	10
修了生の質の担保	5
DCN教育者の質の担保(実践者, さまざまなDCNによる教育)	2
DCNがDCN教育に関与できるきっかけづくりを若い人がDCNになってみたいと思うようなPR	2
DCN教育における受講者の負担軽減への進言(記録の負担軽減, 奨学金制度)	1
興味あるスタッフの学習の場づくり	2

情報提供、研修に活用できる最新情報・データやDCN活動とそのアウトカムの収集・公開などが挙げられた。学会活動に関しては、簡単に入会できることへの要望などが挙げられた(表10)。

自由な意見の記載では、本学会で学びたい内容や、一般業務に加え認知症ケア加算や対応力向上研修等の負担が大きい現状の一方、周囲からの評価が低いこと、待遇改善に向けた支援への期待が挙げられた。本学会へは入

表 10 学会に期待すること：その他の内容 N=84 (複数回答)

内容	回答者数 (人)
PR	
DCN の PR	5
管理者に向けた PR	4
急性期病院における認知症ケアの PR	1
DCN による加算がとれる仕組み	8
特定行為研修への支援 (金銭的補助, 実習の場の確保)	2
DCN の待遇改善	13
CN のメンタルヘルス	2
DCN の活動の場の拡がりへの対応 (地域, 社会の変化)	2
研究・実践報告が簡単にできること, 研究支援	3
合同学会	1
大学と実践の場の交流の促進	1
研修に活用できる最新情報・データ, DCN 活動とそのアウトカムの収集・公開	6
実践に役立つ研修, 情報提供	
院内デイ	3
ラダーのひな型	1
認知症ケア加算等診療報酬	3
タクティールケア研修	1
認知症医療	1
施設の DCN の研修・研究の機会	1
定期的なフォローアップ	1
更新に関するフォロー	2
DCN 間のネットワーク支援	4
地域での活動支援, 相談窓口	3
参加しやすい学術集会・研修	3
簡単に入会できる仕組み	12
学会費を安く	1
認知症関連の専門団体が多	1
DCN 教育機関の教育 (実習) への不満	1

会・参加しやすさへの希望などが挙げられた (表 11)。

5. 考 察

1) DCN に対して本学会が行う支援ニーズについて

DCN 間あるいは他の CN や CNS との交流や相談の場を求めていることが挙げられる。1 施設に 1 人しか DCN がいないなか、気楽に相談できる場やモチベーション維持に役立つ企画が求められていると考えられた。

また、フォローアップ研修のニーズが高いことがわかった。DCN の教育を受けた研修学校等が休校・閉校しているところも多くなり、教員の異動もあることから、修了した学校からのフォローアップが受けられなくなっている。その点での支援ニーズは高く、最新の知識や実務に役立つ知識が求められていると考えられた。

研修や学術集会については場所、日程など参加しやすさを求めている。そのため、少数ではあるがインターネッ

トを用いた研修 (e-ラーニング、オンデマンド配信等) を望む意見もあった。COVID-19 の感染拡大によりインターネット利用が必須となっている現状から、COVID-19 の感染終息後にも研修の手段としてインターネット利用を継続することは有用と考えられる。

2) 本学会での DCN の活動参加推進について

このアンケートには非会員の DCN からの回答も多く得られた。半数以上が入会の意思をもっていたが、入会に研究業績または推薦が必要であることをハードルが高いと感じていることがわかった。学会とはなにかが理解できていない状況や本学会の過去の入会条件で考えている状況、入会申し込みの手続き上でトラブルが生じているケースもあることが伺えた。また、DCN 自身にとっての直接的なメリットを感じるか否かが入会につながるものが伺えた。そのため、実務につながる学習や活動報告などを求めている。

一方で会費を安くしてほしい、学会や研修の回数を増やしてほしい、事例検討を行ってほしい等の要望がある。学会が会員の協力によって成り立つことを知らないからかもしれない。DCN 資格取得者に入会してもらい、本学会の活動に貢献してもらうには、入会時の丁寧な説明が必要である。そのためにも、代議員や DCN 教育に関わる会員への説明が必要と考える。また、学会誌や学術集会等には DCN が時間やお金を使ってでも入会したいと思える企画が求められている。

しかし、DCN の活動にそった内容のみが本学会の目的ではない。むしろ、DCN が会員として本学会活動に貢献することに対して社会的意義を感じる機会、DCN であることの価値や承認を感じる機会を増やすことができれば、本学会および DCN である会員相互の利益となると考えられた。

また、学会誌は発行から 1 年後という条件はあるもののインターネット上で閲覧可能な状態であるが、そのことを知らない回答者もいた。学会についての新しい情報を得てもらう必要がある。特に DCN 取得後から年数がたっている人には必要かもしれない。

6. ま と め

アンケートの回収率が 56.3% と多くの DCN の協力を得ることができた。

本学会に対して回答者は、フォローアップ研修として実務に活かす内容や DCN 間の交流を期待しており、これらが主要な支援ニーズと考えられた。また、DCN の

表 11 その他, 自由な意見

N=69 (複数回答)

内容	具体的な回答	回答者 (人)
知りたいテーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・院内デイケアの特集 ・高齢者・認知症者への災害看護の特集 ・うまくいった事例や活動報告, 実践で活かせる事例 ・認知症ケア加算や院内デイケアに関する具体的な方法 ・実践報告・事例報告の方法 ・GCNS の活動内容 ・CN 更新数, 更新しない人の数 ・最新の医療情報 	9
学会に期待する活動	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者・認知症を深く理解する看護教育 ・DCN に対するニーズ調査 ・研究者と DCN との気楽な話し合い・相談, 活動への助言 ・活動のまとめや研究への支援 ・医師との協働した勉強会 ・多様な研修メニュー ・看護にやりがいがあるテーマの発表の推進 	8
DCN 間の交流の場への支援を	<ul style="list-style-type: none"> ・DCN の交流・研鑽の場, ネットワークがほしい 	3
DCN を PR し地位向上を	<ul style="list-style-type: none"> ・DCN 活動を多方面, 多職種に PR してほしい ・DCN の地位向上・待遇改善を 	4
待遇改善に向けた支援を	<ul style="list-style-type: none"> ・管理者の理解を ・病棟に複数の CN が必要となる体制に ・待遇面に配慮される制度に ・所属機関, 上司, 周囲からの承認, 理解が低い ・スタッフナースである DCN の活動の場を 	7
診療報酬を得られる支援を	<ul style="list-style-type: none"> ・診療報酬を CN が請求・提供できる仕組みなど診療報酬を得られる仕組みやモデルづくり ・院内デイ等への加算 	4
特定行為研修への対応を	<ul style="list-style-type: none"> ・特定行為研修を受けない CN への支援 ・特定行為研修制度への疑問 	2
DCN 活動は負担が大きい	<ul style="list-style-type: none"> ・(加算, 対応力研修, 院内デイ立ち上げ等) 仕事の多さ, 責任・役割の大きさに対し, 組織からの承認や手当が少なく負担感が大きい ・認知症ケア加算による負担 	7
DCN としての意欲や能力の維持向上	<ul style="list-style-type: none"> ・DCN としての能力の維持・向上が課題 ・CN がバーニアアウトしない取り組みを ・更新への意欲が持てない 	3
参加しやすい研修会・学術集会を	<ul style="list-style-type: none"> ・休みやすい月の開催に ・地域ごとの開催, 地方での開催を ・交通の便のよいところでの開催 ・小規模な地域で複数にわたる事例検討会 	9
時間とお金の負担	<ul style="list-style-type: none"> ・年会費を下げしてほしい ・地方は研修を受けるにも交通費の負担が大きい ・資格をとっても金銭的負担や時間の負担が大きい 	3
学会活動の利便性アップ	<ul style="list-style-type: none"> ・活動報告, 研修企画, 情報を書面やインターネットで連絡してほしい ・非会員にも情報を公開してほしい 	4
参加の敷居が高い	<ul style="list-style-type: none"> ・関与への敷居が高い, 機会が欲しい ・院内研究 (事例研究), 実践報告を発表できるように 	3
入会しづらい	<ul style="list-style-type: none"> ・入会方法がわからない ・入会のハードルが高い, 手続きを簡便に 	6
DCN 会の意義への疑問	<ul style="list-style-type: none"> ・DCN 会の意義への疑問 	1
感謝・期待	<ul style="list-style-type: none"> ・DCN への支援に感謝, GCNS を PR しては ・学会ニュース等で活動を知ることで励まされる ・学会誌の特集は興味あるテーマ ・研修に参加したい 	6
学会活動に参加していない	<ul style="list-style-type: none"> ・活動できていない ・入会したてで学会を良く知らない 	2

存在が周知されていないところがあり、本学会の支援ニーズのひとつにDCNのPRも挙げられた。得られた意見1つひとつが貴重なものであり、この結果を今後の学会活動に活かしていきたい。

【謝辞】

多忙なか、本調査に協力していただいたDCNのみなさま

に深謝いたします。

【文献】

百瀬由美子, 小原良之, 桑田美代子, 他(2021): 2019年度認知症看護認定看護師の活動実態調査報告(その1): 活動内容と成果について, 老年看護学, **25**(2), 147-153.